

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 2 区分

【発行日】令和 2 年 6 月 25 日 (2020.6.25)

【公開番号】特開 2020-73827 (P2020-73827A)

【公開日】令和 2 年 5 月 14 日 (2020.5.14)

【年通号数】公開・登録公報 2020-019

【出願番号】特願 2020-12658 (P2020-12658)

【国際特許分類】

F 1 6 L 37/244 (2006.01)

F 2 4 F 13/22 (2006.01)

【F I】

F 1 6 L 37/244

F 2 4 F 1/0007 3 6 1 B

F 2 4 F 1/02 3 7 1 B

F 2 4 F 13/22 2 2 2

【手続補正書】

【提出日】令和 2 年 5 月 12 日 (2020.5.12)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

天井裏に設置された空調機とフレキホースとを接続するための空調設備用ドレン管の接続構造であって、

前記空調機側に接続される第 1 接続継手と、前記フレキホース側にエルボを介して接続される第 2 接続継手とを備え、

前記第 1 接続継手と前記第 2 接続継手とが着脱可能に設けられ、

前記第 1 接続継手は、前記空調機のドレン管又は前記空調機に接続されたドレンホースと接着剤により直接接続され、

前記第 1 接続継手は透明であり、

前記第 1 接続継手と前記第 2 接続継手のいずれか一方に係止部が設けられ、他方に被係止部が設けられ、

前記被係止部は、対称位置に設けられた 2 つの係止突部を備え、

前記係止部は、対称位置に設けられた 2 つの延出部を備え、

前記第 1 接続継手と前記第 2 接続継手とが接続されたとき、前記係止突部の間に前記延出部が位置することを特徴とする空調設備用ドレン管の接続構造。

【請求項 2】

空調設備から発生したドレンを排出するドレン配管とフレキホースとを接続するための空調設備用ドレン管の接続構造であって、

前記ドレン配管側に接続される第 1 接続継手と、前記フレキホース側に接続される第 2 接続継手とを備え、

前記第 1 接続継手と前記第 2 接続継手とが着脱可能に設けられ、

前記第 1 接続継手における前記ドレン配管側の端に差口部が備えられ、

前記第 1 接続継手は透明であり、

前記第 1 接続継手と前記第 2 接続継手のいずれか一方に係止部が設けられ、他方に被係止部が設けられ、

前記被係止部は、対称位置に設けられた２つの係止突部を備え、

前記係止部は、対称位置に設けられた２つの延出部を備え、

前記第１接続継手と前記第２接続継手とが接続されたとき、前記係止突部の間に前記延出部が位置することを特徴とする空調設備用ドレン管の接続構造。

【請求項３】

空調機とフレキホース、および、ドレン配管と前記フレキホースを接続するための空調設備用ドレン管の接続構造であって、

前記空調機側および前記ドレン配管側に接続される第１接続継手と、前記フレキホース側の両端に接続される第２接続継手と、

を備え、

前記第１接続継手は、前記空調機のドレン管および前記ドレン配管と接着剤により直接接続され、

前記第１接続継手と前記第２接続継手とが着脱可能に設けられ、

前記第１接続継手と前記第２接続継手のいずれか一方に係止部が設けられ、他方に被係止部が設けられ、

前記被係止部は、対称位置に設けられた２つの係止突部を備え、

前記係止部は、対称位置に設けられた２つの延出部を備え、

前記第１接続継手と前記第２接続継手とが接続されたとき、前記係止突部の間に前記延出部が位置し、

前記空調機側の第２接続継手は、エルボを介して前記フレキホースと接続されていることを特徴とする空調設備用ドレン管の接続構造。

【請求項４】

天井裏に設置された空調機と、フレキホースと、ドレン配管と、を備えた配管構造であって、

前記空調機と前記フレキホースとを、請求項１に記載の接続構造で接続したことを特徴とする配管構造。

【手続補正２】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００８

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００８】

上記目的を達成するため、本発明に係る空調設備用ドレン管の接続構造では、天井裏に設置された空調機とフレキホースとを接続するための空調設備用ドレン管の接続構造であって、前記空調機側に接続される第１接続継手と、前記フレキホース側にエルボを介して接続される第２接続継手とを備え、前記第１接続継手と前記第２接続継手とが着脱可能に設けられ、前記第１接続継手は、前記空調機のドレン管又は前記空調機に接続されたドレンホースと接着剤により直接接続され、前記第１接続継手は透明であり、前記第１接続継手と前記第２接続継手のいずれか一方に係止部が設けられ、他方に被係止部が設けられ、前記被係止部は、対称位置に設けられた２つの係止突部を備え、前記係止部は、対称位置に設けられた２つの延出部を備え、前記第１接続継手と前記第２接続継手とが接続されたとき、前記係止突部の間に前記延出部が位置することを特徴としている。

【手続補正３】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００９

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００９】

また、本発明に係る空調設備用ドレン管の接続構造では、空調設備から発生したドレンを排出するドレン配管とフレキホースとを接続するための空調設備用ドレン管の接続構造

であって、前記ドレン配管側に接続される第1接続継手と、前記フレキホース側に接続される第2接続継手とを備え、前記第1接続継手と前記第2接続継手とが着脱可能に設けられ、前記第1接続継手における前記ドレン配管側の端に差口部が備えられ、前記第1接続継手は透明であり、前記第1接続継手と前記第2接続継手のいずれか一方に係止部が設けられ、他方に被係止部が設けられ、前記被係止部は、対称位置に設けられた2つの係止突部を備え、前記係止部は、対称位置に設けられた2つの延出部を備え、前記第1接続継手と前記第2接続継手とが接続されたとき、前記係止突部の間に前記延出部が位置することを特徴としている。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

また、本発明に係る空調設備用ドレン管の接続構造では、空調機とフレキホース、および、ドレン配管と前記フレキホースを接続するための空調設備用ドレン管の接続構造であって、前記空調機側および前記ドレン配管側に接続される第1接続継手と、前記フレキホース側の両端に接続される第2接続継手と、を備え、前記第1接続継手は、前記空調機のドレン管および前記ドレン配管と接着剤により直接接続され、前記第1接続継手と前記第2接続継手とが着脱可能に設けられ、前記第1接続継手と前記第2接続継手のいずれか一方に係止部が設けられ、他方に被係止部が設けられ、前記被係止部は、対称位置に設けられた2つの係止突部を備え、前記係止部は、対称位置に設けられた2つの延出部を備え、前記第1接続継手と前記第2接続継手とが接続されたとき、前記係止突部の間に前記延出部が位置し、前記空調機側の第2接続継手は、エルボを介して前記フレキホースと接続されていることを特徴としている。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

また、本発明に係る配管構造は、天井裏に設置された空調機と、フレキホースと、ドレン配管と、を備えた配管構造であって、前記空調機と前記フレキホースとを、請求項1に記載の接続構造で接続したことを特徴としてもよい。